

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

協 力：金沢ホースマンクラブ  
協 賛：金沢競馬振興協議会  
発 行者：遊駿プラス編集部

# 遊駿 PLUS

# 無料

ご自由にお持ちください  
[www.kanazawakeiba.com](http://www.kanazawakeiba.com)

十一月三日(祝)

# J B C C 2 0 2 1

おしえて！吉原先生

金沢はどんな馬場？

金沢で食べたい！競馬場グルメ

競馬場グルメと野菜の記憶

競馬リポーター 大恵陽子

出張ウマフリ

コロナ禍のJBC……

しかし祭典としての輝きは失わない

ウマフリ 緒方きしん

2021年11月

vol. 47

※ご意見、ご感想をお寄せください  
宛先 E-Mail: [yushun.plus@gmail.com](mailto:yushun.plus@gmail.com)  
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

# おしえて! 吉原先生



普段金沢競馬を買わないファンにとって金沢競馬場の特徴や傾向などはよくわからない物。そこで金沢の馬場を知り尽くしている吉原寛人騎手に金沢の馬場がどんな馬場なのか、聞いてみた。

金沢の馬場に合う馬はズバリどんな馬かと聞くと、

「馬場的には外枠先行馬がいい。そこを狙って馬券を買えば」

との事。金沢を見ていると差し届かずのレースを多く目にして先行馬がいいのはわかるが、枠は外枠がいいと言う。しかし、それは、

「内は捌きにくいのが今の馬場状態かな」

外がいい、と言うよりも内がよくないと言った感じか。しかし、前回のJBCのように前日に雨が降って馬場が濡れば内外の影響は、

「良ならば外でいい。雨が降っても最近の内が効く馬場にはならない」

雨で馬場状態が悪化しても外有利は変わらない。それでは距離はどう

かと言うと、

「距離に有利不利はないなあ」

JBCの一四〇〇、一五〇〇、二一〇〇の各距離、どれでも外枠の先行馬が有利。ある程度前々に付けておかないと最後差し届かずのパターンがJRAの馬でも見られると言った所。

では、展開のアヤで内に入ったらもうおしまいなのかと言えばそうでもなく、

「一瞬なら内も使える。本当に一瞬だけ」

その辺りの瞬時の判断は地元金沢を知り尽くす吉原騎手に一日の長はある。さらに、



「前の痛い砂じゃなくなったので、内で砂被っても案外我慢できる。(初めて金沢を走る馬でも不利はない)」

とも。去年までは「世界で一番痛い馬場」とか「地獄」と言われた砂が今年、全面的に入れ替えられ改良された。これによって去年以前よりかはまだ、内に入っても絶望を覚える必要はないだろう。



Photo by haruka

「力のある馬は力出せる馬場だね」

そう言う吉原騎手には地元のトップジョッキーとしての意地が表情に浮かんでいた。

最後に全国のファンの皆様へ、

「コロナ禍で入場制限のある中で競馬をやらせてもらってますが、寂しい気持ちもあります。でも、ネットで一杯(馬券を)買ってください。」

よろしくお願いします」

JRAの馬や騎手に負けない地元馬や騎手の意地をこの大舞台で見たい。



雨中の決戦は

伏兵のレコード勝ち

第四十一回白山大賞典

JBCクラシックと同舞台、同距離で行われる白山大賞典。この条件を求めて地方、中央の強豪が金沢に集った。

一番人気は連覇を狙うマスターフェンサー、二番人気に吉原寛人騎手を配した船橋の雄、ミューチャーが続いた。

強い雨で馬場からしぶきが上がる不良馬場の中ゲートが開くと五番人気中央のメイショウカズサがすつとハナに立ち、それを同じく中央のスワーブアラミス、ヒストリーメイカーが追う展開。その後にはマスターフェンサー、差し脚が強烈なミューチャーも前の集団にとりつく。

縦長の展開で二周目の向こう正面。相変わらずメイショウカズサはすいすいと先頭を走り、ヒストリーメイカーが徐々に後退。ここでミューチャーが早めに前を捉えに行き、スワーブアラミス、マスター

フェンサーもつれて前に迫る。しかし、メイショウカズサはコーナーを回ると逆に差を広げてゆく。最後の直線に入るともうセーフティリードと言えそうな差をつけての先頭。そのまま差を縮めさせることなく三馬身つけて優勝。二着に吉原騎手の懸命のムチに応えたミューチャー、三着にスワーブアラミスが残ってマスターフェンサーは四着までとなった。

勝ちタイム二分一〇秒三はレコード、鞍上の川田将雅騎手は昨年に続いての連覇となった。

今年もやはり強かった中央勢。しかし、二着になったミューチャーが金沢の経験、吉原騎手との手合わせなど一番収穫の多いレースをしたように見えた。本番のJBCに登場した時には大きな注目が必要な一頭になった。



Photo by haruka



### コロナ禍のJBC……しかし 祭典としての輝きは失わない

ウマフリ 緒方きしん

二〇一九年に浦和競馬場で取材をした際、担当者の方が「本場に嬉しい」と繰り返して仰っていたことを思い出す。実際にJBC浦和の公式サイトにも「JBC競走の開催は、浦和競馬の永年の夢でした。その夢が、令和最初の年に実現します」と書かれています。

二〇〇一年に創設され、第一九回目を迎えた二〇一九年で、ようやくの浦和開催だった。二〇二〇年も含めて八度もJBC開催地に選出されている大井とは異なり、悲願達成という感が強く、担当者の方の言葉を借りると「ハードルは高かったのを、プレゼンの天才のようなメンバがなんとかしてくれた」のだとか。

新スタンドの建設、走路やパドックの拡張など、多くの改築をした『新生・浦和競馬場』に、当日は三万人近くが集まった。現地組からは大盛況・大熱狂を伝える楽しい悲鳴が各SNSに投稿され、まさに競馬の祭典といった雰囲気になっていたように思う。

しかし翌年から世界を襲ったコロナ禍が、我々をそうしたお祭り騒

ぎから遠ざけた。無観客競馬、入場制限開催……この約一年半で、思いもよらず「見たことのない競馬場」と見るようになった。

かくいう私も、以前からお付き合ひさせていただいている『遊駿』さんの本拠地・金沢でJBCが開催されるといふのに、直前になっても行けるかどうか不透明な状況だ。

それにしても、二度目の金沢JBCがこんなにも早く訪れるとは、少々驚きでもあった。前回の金沢JBCもかなり思い出深い。その中でも金沢競馬フアンの目に焼き付いているのは、JBCクラシックでジャングルスマイルが四着に食い込んだ勇姿ではないだろうか。

世間的には、前年覇者ワンダーアキユート対同年のかしわ記念・帝王賞を制していたホッコータルマエという構図だったかもしれない。実際に、このレースはホッコータルマエ・ワンダーアキユートのワンツー決着。馬連が二・四倍という手堅い決着となった。

この年は他にもクリソライト、ハタノヴァンクール、ソリタリーキングといった中央の一線級ダート馬が集結していたため、地方勢のオッズは跳ね上がった。地方馬で一番人気を集めたのは名古屋のサイモンロードだったが、それでも単勝四四八倍、十二番人気のハリマノワタリドリに至っては九〇五・八倍という評価である。

その中で、金沢の雄・ジャングルスマイルは六二八・八倍。地元の交流重賞・白山大賞典では二〇一〇年二着、翌年四着と存在感を示していたジャングルスマイルだったが、七歳という年齢もあってかJBCの前哨戦として挑んだ同レースで六着に敗れていた。しかしJBCクラシックが始まると中団後方で堂々たるレースを展開。上位三頭には大差をつけられたものの、最後まで懸命に追い込んで中央の素質馬クリソライトをハナ差かわして四着と好走した。平瀬城久騎手による、魂の騎乗したのは、私だけではないだろう。



ジャングルスマイル

Photo by haruka

今年もJBCも、現地がお祭り騒ぎになることはないだろう。自粛ムードのなか開催されるJBCとなる。しかし一方で、地元勢や地方勢の

意地は健在だ。現場の熱は変わらない。たとえ現地にいけなくとも、画面の向こうから、金沢JBCならではの熱気を探したい。

二度目の金沢JBC。ファンの目に焼き付くシーンは、どんなシーンになるだろうか。



### ▼ウマフリとは？

『競馬の楽しさを、全ての人へ』をモットーに、多彩な執筆陣が様々なブログを上げているインターネット上のフリーペーパーです。

掲載されているブログには中央や地方、海外の競馬情報はもちろん、競馬場グルメやイベントレポートなど、多様な内容が揃っています。

また公式ツイッターでは日本酒情報が馬の記事以上(?)に充実する事も。

競馬初心者もベテランも読みごたえのある記事が揃うウマフリ。一度「ウマフリ」で検索して覗いてみてはいかがでしょう。

### ■ウマフリ公式サイト

<https://www.uma-furi.com/>

### ■ウマフリ公式ツイッター

@Uma\_Free



前回の金沢JBCは二〇一三年、前日の雨が残って不良馬場となった十一月四日に行われた。またレディースクラシックがJpnIに昇格し、史上初のJpnIが三レース同日に行われる日となった。

第三回JBCレディスクラシックでは目下ダートグレード四連勝中、濱中俊騎手騎乗のメーディア(牝五歳)が単勝一・〇倍に比べて優勝。地元勢は藤田騎手騎乗のアルドラが出走したが、残念ながら最下位という結果に終わっている。

続く第一三回JBCスプリントでは、後藤浩輝騎手騎乗のエスポワールシチー(牡八歳)が単勝一・七倍に比べて優勝、南部杯からのJpnI連勝を決めた。二着には初ダートのドリームパレンチノ。地元勢では吉原騎手騎乗のサミットストーンが六着と健闘を見せた。

最後に行われた第一三回JBCクラシックでは、幸英明騎手騎乗のホッコータルマエ(牡四歳)が単勝一・四倍に比べ、レコードのオマケ付きで勝利。これではJpnI三勝目を決めた。二着にはワンダーアキユート。地元勢は平瀬騎手騎乗のジャングルスマイルが四着と大健闘。堀場騎手騎乗タートルベイは八着となった。

# ミニデータルーム 今年の地元勢は？

他場への遠征が少ない金沢勢。どんな馬が有力でどんなレースをしたのか紹介しよう。

## ▼ハクサンアマゾネス

今年の金沢で一番の実力と実績を持つのは誰か。その答えがハクサンアマゾネス（牝四歳）であることは地元ファンの一致する所。重傷は石川ダービーなど通算九勝。今年だけで重賞四勝、地元では三着以下なしとまさに敵なし。今の金沢総大将と言っても過言ではない。



ハクサンアマゾネス

Photo by MIWA

今年の二月に初めて挑戦したダーツグレードのエンプレス杯（JPN II）では二秒二差の七着。その時よりも確実にメンバーのレベルは上が

るが、コースも騎手も勝手知ったる物に変わり、地元のアドバンテージも生きてくるだろう。地元の意地を全国に見せつけてくれるか注目。

## ▼ネオアマゾネス

今年、そのハクサンアマゾネスに勝って重賞を制したのがネオアマゾネス（牝四歳）。中央でデビューし、高知競馬へ移籍、今年の開幕に合わせて挑んだ重賞徽軫（ことじ）賞ではハクサンアマゾネスを三馬身つけて優勝。今年唯一の敗戦をつけた。



ネオアマゾネス

Photo by ゆうか

その後の二戦では期待に応えられないレースが続くが、復調すれば地元勢の中では上位の力はある。ハクサンアマゾネスとダブルアマゾネスであつと言わせて欲しいところだ。

## ▼ファストフラッシュ

金沢はなぜか伝統的に強豪馬は牝馬が多い。牡馬に強いのはいないのかと言われればその筆頭はファストフラッシュ（牡六歳）ではなからうか。中央↓笠松↓中央と渡り歩いて金沢にきたのが五歳春。そこから特別では無敵だが重賞では惜敗と言う善戦マンとなる。



ファストフラッシュ

Photo by ゆうか

しかし、今年の金沢スプリングカップで八回目にして初めて重賞のタイトルを獲得。いよいよ本格化かと思われたが、その後はまたもや善戦マンに逆戻りしているようにみえる。中央では一勝クラスで終わったがここからの下剋上を見たい。

## ▼古馬勢

その他の古馬勢を駆け足で見ても、今年のTCR女王杯四着と実績十分の六歳牝馬マルカンセンサー。白山大賞典TRイヌワシ賞で地元勢最先行の四着と、さらなる高みを目指す四歳牡馬のピアノマン。地元重賞で今年二着二回三着一回、老け込むのはまだ早い六歳牡馬のエイシンレーザー。

JBCに照準を合わせて今年金沢にやってきた移籍組が要注目とも言えよう。

## ▼生え抜き勢



トップロイヤル

生え抜き勢も健在だ。平場では安定した成績を上げ、重賞戦線では百万石賞三着、強い相手と手を合わせてさらなる高みを目指したい四歳牡馬トップロイヤル。

あるいは、今年はまだ勝利がなく長いトンネルの真つただ中、そんな中でも白山大賞典では意地の地元勢再先着（七着）を成し遂げた古豪七歳ティモシーブルー。

また過去出走の例は少ないが三歳馬に目をやると、二歳の時に六連勝



ティモシーブルー

を記録した天才少女サブノタマヒメや、二歳から三歳の重賞戦線で常に善戦し、先日も古馬相手に勝利を挙げたフューリアスがいる。



フューリアス

正直なところ、地元勢は誰が出るかと実力的にも厳しいだろうと言わざるを得ない。しかし、前回ジャングルスマイルのような大激走を見せられてしまうと、やはりその再来に期待をしなくなるのがファンの心理だろう。頑張れ地元勢！

# 金沢で食べた！ 競馬場グルメ

## 競馬場グルメと野菜の記憶

競馬リポーター 大恵陽子

一人暮らしの独身者にとって、金沢競馬場は栄養の宝庫だった。三年前のちょうどいま頃、出張続きで野菜不足に陥っていたところ、パドックの奥で怪しげな赤い看板を輝かせる「世界館」という食堂に入った。店内はカウンターのみに、大将と奥さんの二人で切り盛りしていた。

「野菜がたっぷり乗ったラーメンがあると聞きました」  
そう告げてから約五分後。差し出されたのは、煮込みラーメンを彷彿とさせるソフト麺に卵でとじられたキャベツ、ニラ、人参、もやし、キノコ、蒲鉾、桜エビ、そして牛肉がどーんと乗った「スタミナラーメン」。具を食べても食べてもなかなか麺までたどり着かず、十一月だというのに食べ終える頃には汗ばんでいた。

競馬場グルメでは貴重な、栄養バランスのとれた一品に嬉しくなり、野菜不足を感じるたびに金沢競馬場の世界館へ駆け込んだ。

昨年から新型コロナウイルスが蔓延し、金沢でも長く無観客が続いた。

た。昨秋、ようやく入場が再開され、レース取材のために訪れた時は大将も奥さんも元気そうで、「いつもの野菜たっぷりやつをお願いします」と言うと、コロナ前と何一つ変わらぬ



馬笑屋の「ジャンボチキンフライ」

た。しかし、世界館に変わってその隣に「馬笑屋」という新店がオープンした。実況の大川充夫アナウンサーがツイッターに「スペシャルレモンソーダ」という、凍ったレモンがゴロゴロと入った爽やかな飲み物を投稿していて、とても気になった。詳細を聞こうと実況席に行くと、山中寛アナウンサーが

「もつ煮込みうどんという新メニューも始まりましたよ」と胸が躍るひと言を付け加えた。

早速、馬笑屋に行く  
と「もつ煮込みうどん」は大根、ごぼう、人参、青ネギ、もつ、そして赤巻という北陸地方で親しまれる蒲鉾と具だくさんだった。世界館が閉まって野菜が恋しかった体に染み渡る。

スタミナ  
ラーメンが出てきた。

それなのに。今年八月に行くと、世界館はシャッターを閉め、これでもかというくらいたくさんのメニューが手書きされたトレードマークの赤い看板を消していた。

が初日なのでいつもより具が多めなんです（苦笑）と言われ、カウンター席から滑り落ちそうになったが、仮に具材が半分になったとしても食べ応え十分の一品だ。汗ばんできた頃、スペシャルレモンソーダをぐびつと飲むと、一気にリフレッシュされた。このお店では他にも

ジャンボチキンフライなど食べ応え抜群のメニューがあるようだ。

十一月三日には八年ぶりに金沢にJBCがやってくる日。当日、ジャンボチキンフライを頬張りながらパドックを見ることが今の私の楽しみだ。

### ▼ハンシューチョーのオススメ

今年オープンした飲食店は馬笑屋ともう一つ「ふらいばん」がある。焼き鳥の赤提灯と「ホルモンうどん」の幟が目を引くお店で、その幟にあるホルモンうどん（五五〇円）がおススメ。



ふらいばんの「ホルモンうどん」

ホルモンうどんは具にホルモンが入った焼きうどん。ホルモンはしつこそう、なんてイメージがあるかもしれないが、甘辛いタレが絡む味付けでしつこさはなくするつと食べられる。女性のファンでも「しつこくなくて美味しい」と大好評。昼食と

してもお酒のアテにもイケる、金沢競馬場の二刀流のグルメとして名物になりそうだ。

金沢競馬場には他にも美味しい競馬場メシを提供するお店が並ぶ。お好み焼きと焼きそばが半々に盛られた大ボリュームの「ペア」が人気、行列必至の「たこ勝」。



たこ勝の「ペア」

カツ定食、カツ丼などカツが美味しい「サンキ」、イカ焼きがおススメの「軽食今村」、これからの時期に嬉しい染みたおでんが美味しい「らくや」、うどん、そば様々なメニューが豊富な「麺栄」、本格的な握り寿司が楽しめる宇ノ気玉寿司、握り以外にも柿の葉寿司もおススメな「金澤玉寿司」などなど。  
いずれのお店もサイズはコンパクトで満席になりやすいが、外で食べられる所もあるので、とりあえずのれんをくぐってみよう。

# 金沢競馬場ミニガイド



## 金沢競馬場ほんを所

この原稿を書いている時点でどうなるかは全くわからないが、コロナ禍が収まってきた時にでも金沢競馬場を現地で楽しみたいとなったときに観戦の参考にしていただきたい。

## ● アクセス

最寄駅はIRいしかわ鉄道の森本駅だが、競馬場までは約三キロと歩いていくのはなかなか厳しい。

そこでオススメするのは、金沢駅から出ている無料のファンバスだ。金沢駅は、森本駅から二駅、約七分の乗車で到着する。競馬場からは一旦離れる事になるが、歩いて行くより余程早くに着くことができる。レンタカーが使えるのであれば、自動車で行くのが良いだろう。無料の駐車場は、堂々の五三三四台分を完備している。

最寄りのインターは北陸自動車道金沢東ICで、下りてから約六分まで到着する。遠くからでもよく見える

パトロールタワーを目印に、安全運転でお越し下さい。

## ● 新聞

入場門を入ってすぐ左手に、新聞売場が並んでいる。現在四紙が発売されており、いずれも冊子タイプ。馬柱は横型だが、縦型を用意している予想紙もあるのでお好みの一紙を選ぶといいだろう。



## ● グルメ

記事中でも紹介したお店がある。パドック脇の食堂街では、他にもうどんやそば、焼きそばに握り寿司など様々な食べ物があり、そのほとんどがテイクアウト可能。スタンドに陣取って、河北潟からの風を感じながら食事を楽しむのもいいだろう。

またスタンド内には大食堂もあり、どつしり腰を据えての食事もできる。どちらを選ぶかは、その時のお財布と相談しながら決められる。

またスタンド内には売店もあり、飲食物を買うことができる。



## ● 特別観覧席

冷暖房完備、入場料千円の有料特別観覧席がある(ただし九月二十日現在は、コロナ禍で使用中止)。

またスタンドの三階には全国的にも珍しい畳席があり、こちらは無料の自由席となっている。座りたい方はお早めに。



いよいよ始まる金沢JBC。前回JBCから七年が経ち、その間に金沢競馬を取り巻く環境には様々な変化があった。

たとえば重賞の数。JBC翌年の二〇一四年が一五個、コロナ前の二〇一九年になると石川ダービーなどが増えて一九個。また既存の重賞でも北國王冠が全国交流となり、賞金も多少なりに上がって重賞としての質も良化した。

それから、設備面。前回JBCの時ですら先送りされていた設備の更新が進み、建物の耐震化や掲示板の更新、パドックの改装が行われた。パドックは中心部が人工芝となつて見た目も鮮やかに、かつ周回路との段差が解消された。掲示板に至ってはなんとあの三菱電機の「オーロラビジョン」である。これだけでご飯三杯は行ってしまう諸兄もおられるのではなからうか。

さらには「地獄」とまで言われ大不評だった馬場の砂も入れ替わり、近い将来には厩舎の改装も予定されているとか。来場者のみならず、関係者にも嬉しい金沢競馬場へと変わっている。

一方、変わっていない物もある。おいしい競馬場グルメの数々、のんびりとした場内の雰囲気、メインスタンドから眺める白山連峰の山々な

ど、金沢でしか見られない景色。どこか懐かしさすら覚えるこれらの風景は、これからも変わってほしくないものである。

だが、変わってほしいが変わっていない物もある。その筆頭は、地元所属馬のレベル。交流競走が増えたこともあり、他場からの遠征馬に地元馬が負ける姿を見る機会も増えてしまったように思える。

地方競馬全体のレベルが低いので無さそう。他場では、ダートグレードで地方馬が中央馬相手に互角以上に戦い、JpnIであつても健闘どころか勝利している——そんな他場の歓喜を、金沢のファンは忸怩たる思いで見ているのである。

レベルが低い理由は、賞金や番組編成など様々あるのだろうと思うが、ここに大きく手が入った様子はない。当紙「遊駿+」が発刊されてから今年で一五年を数えるが、前回のJBCどころか発刊時点からその辺りは変わっていないし、変わる気配もない。

地方競馬の楽しみは、やはり地元馬の活躍である。ホースマン達の挑戦や試行錯誤は続いているだろうし、主催者の後方支援も今後拡充していくのだろうが、やはり結果を見てみたい。そのためにはより一層の支援拡充を期待したい。

いつになるかはわからないが、次のJBCの時には「変わった!」と実感させられる事を祈っている。